

第61回学習会を、平成27年9月25日(金)19:00~20:00福翔高校にて行いましたので、報告いたします。

## 第61回の内容

講師 重枝一郎先生

キャリア教育の充実と学力向上

- 1 キャリア教育も 教育もねらいは共有できる
- 2 キャリア教育の視点から教育活動を振り返るとは
- 3 授業の基礎的条件
- 4 よくある発言
- 5 「自ら学ぶ意欲」を発達段階から考える
- 6 演習「先生ばかりが住んでいるマンション」



## キャリア教育の充実と学力向上

### 1 キャリア教育も 教育もねらいは共有できる

「社会性の育成，学習に対する目的意識や学習意欲を向上させる」

### 2 キャリア教育の視点から教育活動を振り返るとは

「4つの能力のフィルターを通して教育活動を捉える」

基礎的・汎用的能力

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

「仕事に就くこと」に焦点を当てて整理されたもの  
この4つはそれぞれが独立したものではなく，相互  
に関連・依存した関係

### 3 授業の基礎的条件

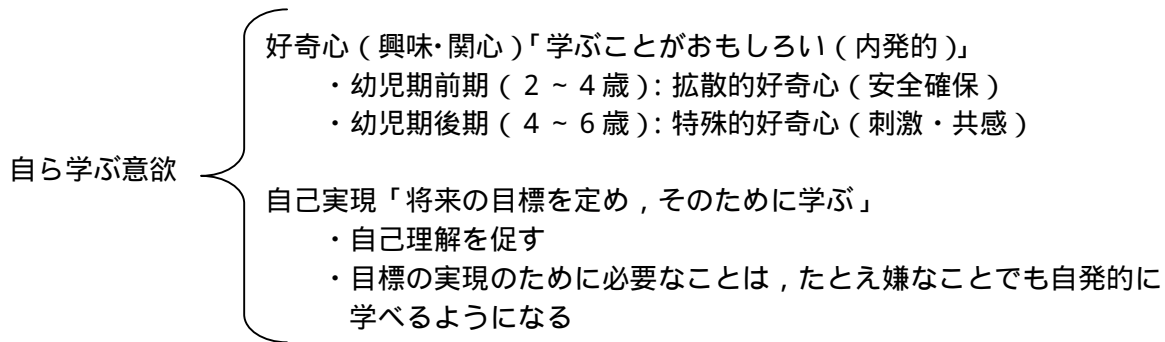
「学習規律，肯定的な人間関係」などの毎日の授業の基礎的条件を確立していくことが，キャリア教育と考えるとよい。つまり，双方向であることから，キャリア教育は学校教育全体を通して行うことになる。

### 4 よくある発言

「キャリア教育より学力向上させることが重要ではないですか」

「生徒指導が忙しくてキャリア教育を実施する余裕がありません」

## 5 ( 1 ) 「自ら学ぶ意欲」について発達段階から考える



幼児期の「好奇心」を充足させると、自ら学ぶ意欲の中核は形成される

「キャリア教育の充実と学力向上とは対立するものではない。  
学習意欲の低下は、学習習慣が確立しないことにつながる。  
つまり、上記に書いたように、学ぶ意欲の発達段階から考えると、キャリア教育を実践することにより、学習意欲を向上させることができれば、学力向上につながる」

## ( 2 ) 「生徒指導」の実態から考える

「問題行動を起こした生徒が、よりよい行動を選択したり、自分の行動に責任をもつように指導したりすることは、自己指導能力の育成をしているといえる。これは、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成と同じである。つまり、日常の生徒指導の忙しさは、生徒指導をしながら、キャリア教育を充実させていることと考えることが大切である」

## その他

Q-U アンケートの研修から思うこと ( データを前におかない )

GWT をしたら授業につなげる。

学力向上を目指すなら「良好な人間関係づくり」を・・・ ( ラーニングピラミッド )

ルールをつくりながらリレーションをつくり、リレーションをつくりながらルールをつくる。



### 3本柱をしっかりしていたら学校はよくなる

- 1 授業（アクティブ・ラーニング）
- 2 部活動（小学校では、活動の活性化）
- 3 キャリア教育

上記の3本柱を、それぞれにではなく、すべてを関連させて一緒にしていけば学校はよくなります。キャリア教育でも、人権教育でも、教育でも、ねらいは共有できます。日常的に行っている教育活動は、何も変える必要はありません。すべてが、社会性の育成につながっています。

### 「キャリア教育」は、すべての教師が背負っている

キャリア教育については、もともと4領域8能力を育成することが示されていました。それが、今回の指導要領改訂に伴って見直され、「基礎的・汎用的能力」として整理されています。

このような流れを、教師は知った上で日々の教育活動をしていかないと、「おまけ」のような教育活動になってしまいます。

教師であれば全員がキャリア教育をするので、自信をもって教育活動をするために、「キャリア教育」の定義や、そもそも「キャリア教育」とは何かなどを知っておく必要があるのです。

そうすれば、「毎日の授業中にしていることがキャリア教育です」「人間関係づくりがキャリア教育です」などと、自分があたりまえに行っていることを意味付け、関連付けることができるようになるのです。

### よくある発言

「キャリア教育より学力向上させることが重要ではないですか」「生徒指導が忙しくてキャリア教育を実施する余裕がありません」などは、よく聞くことです。

しかし、本当にそうでしょうか。

キャリア教育の重要性を語るができる教師は、学力を向上させることができる教師です。どのような教育活動も、それが単独で行われるのではなく、相互的・依存的に行われます。

生徒指導を精一杯することが、キャリア教育になります。それは、自己指導能力を育成することといえるからです。このように考えると、勇気づけられる先生がいるかもしれません。

自分の教育活動について語れる教師になることは、自分自身をメタ認知し、省察できる教師といえます。

### 発達段階から考える

子どもの発達段階をふまえた話は、保護者にも説明できます。

赤ちゃんの頃を思い出してもらおうと、何でも口に入れる時期があります。それは、知的好奇心があるからで、2才～4才頃までを「拡散的好奇心」と言います。その時代に大人がすることは、安全確保です。

それが、4才～6才頃になると、特に、興味のある対象がはっきりしてきます。それを、「特殊的好奇心」と言います。その時代に大人がすべきことは、子どもに共感し、刺激を与えることです。

小学生になると、「成長欲求」や「優越欲求」などの欲求が生まれます。

中・高校生になると、「自己実現」に向かう時期なので、目標が必要になります。目標を定めることで、「自ら学ぶ意欲」をもつことができます。目標をもつと、自分の嫌なことも自らするようになります。大人は、それを応援するだけです。

幼児期の「好奇心」を満たしていると、中核が形成されます。発達もスムーズに進み、目標をもちやすくなります。

風土会講師の重枝先生は、夏休み中に20校以上の学校で、Q-Uについての研修会の講師をされています。求められるのは、Q-Uの分析の仕方ですが、重枝先生は、教員の同僚性が一番大切だと考えています。

学校には、様々な子どもがいます。だから、多様な視点で子どもを見つめ、関わるのが大切です。Q-Uで最も大切なのは、「まさか」という気付きを得ることです。教師の観察で見落としている子どもの本音に気付くことができることです。

Q-Uの結果は、「前」を歩かせるのではなく、横に連れて日常の教育活動につなげていくことが何よりも大切です。後手にまわるのではなく、ビジョンをもって先手で教育活動を行うのです。

学力向上をめざすなら、ラーニングピラミッドに示されているように、「人に説明できる」ことが必要になります。90%の定着率が示されています。つまり、他者の存在が必要だということです。

人に説明するためには、良好な人間関係が必要になります。結局は、学力向上も人間関係づくりも、まったく同じ考え方、やり方です。そして、どちらもよくなるか、悪くなるか、相関関係にあるのです。

### 演習「まちがいさがし」

風土会で紹介している演習は、授業で実践するためのポイントを学び、実感することが目的です。

「まちがいさがし」は、自然にチームワークが生まれる、楽しい演習です。楽しい演習の場合、教師は説教をしてもよいと考えます。難しい演習の時は、ほめるポイントを見つけて話します。

このように、演習の時に、教師が何を話すのかを考えておく必要があります。教師の語りで、演習が学びに変化します。

「まちがいさがし」の授業で大切なのは、「自分の考えをもつと話し合いが活性化する」という点です。

下記のAとBの絵には、違いが10個あります。

6人1組のチームをつくり、3人がAの絵を順番に見に行きます。どんな絵なのかを、他の人に説明したり、実際に書いたりして伝えます。

次に、Bの絵を残りの3人が順番に見に行き、違いを見つけます。

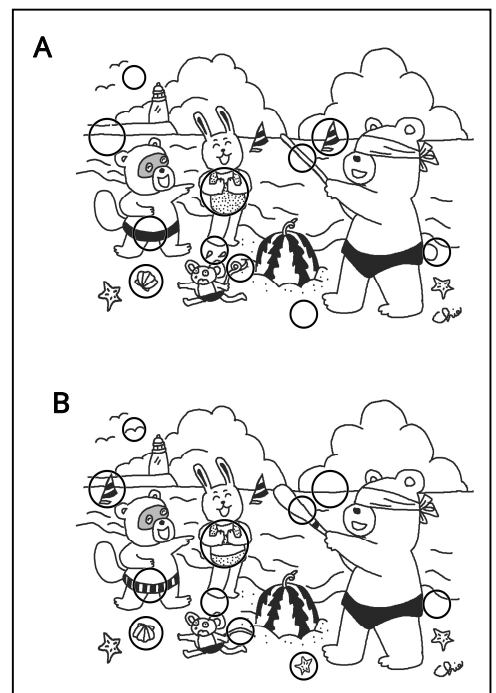
最初、Bチームの3人は、どんな絵なのか、まったくわからない状態です。自分の考えがない状態と言えます。まだ、自分達の出番ではないので、関係ないと思っています。

Aチームは、自分の考えをもっている状態です。

自分の考えをもっている人ともっていない人がいると、話し合いは活性化しません。だから、教科の授業の時には、自分の考えをつくる時間をしっかりとる必要があるのだと先生達も実感できます。

しかし、自分の考えをもっていないBチームの人も、Aチームの人の話をよく聞いていたり、質問をしたりしていた人は、すぐに、まちがえを見つけられることができます。

チームワークの心地よさや協力する楽しさは、必ず実感できる演習です。それに加えて、教科の授業に関連させた気付きを得ることができると、教師が知っておくと、効果的な授業が展開できます。



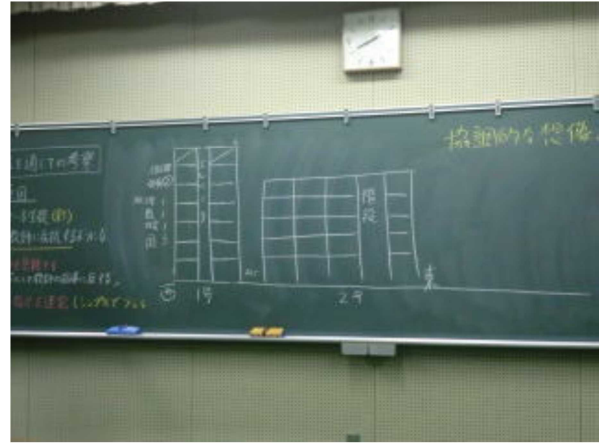
## 演習「先生ばかりが住んでいるマンション」

「先生ばかりが住んでいるマンション」は、アクティブ・ラーニング型授業と関連付けることができます。

アクティブ・ラーニング型授業は、講義型の受け身の授業ではなく、主体的で協働的な授業です。

この演習は、40枚のカードに書いてある情報を組み合わせて課題解決する内容です。

司会者がリーダー役になり、カードをもっている人達がメンバー役になります。



みんなが一生懸命にするだけでは、チームワークはつukれないということを実感させます。みんなの意見を聞いて、調整することの大切さを実感させるように、教師が働きかけます。

リーダーとメンバーの両方を経験させて、振り返らせると、段階的に成長させることができます。

自分のカードに書いてある内容を、1回伝えたら終わりではなく、何度でも発言することで、答えにたどりつくことができます。40枚のカードの内容を組み合わせる難しい内容なので、みんなで意見を言い合い、伝え合うことが大切です。また、誰かが言った情報を、きちんと聞いておかないと、情報を整理することができません。

このようなことをふまえて、教師は、タイミング良く子どもにアドバイスをします。

リーダーが決めつけるような発言をすると、メンバーが発言しにくくなります。

また、情報がたくさん出てくると、リーダーも混乱していきます。

このように、課題解決の過程では、いろいろな場面が出てきます。

その状況をよく観察して、教師は、必要に応じた介入をしていきます。

リーダーは、「何でもいいから、どんどん発言して」と、引き出すような言葉かけをした方がよいし、メンバーが意見を言ってくれたり、情報を整理してくれたりすると、リーダーが助かるということも、伝えるようにするとよいでしょう。

感情面の振り返りをして、ルールをつくることもできます。

演習を通して、子ども達に何を教え、何に気付かせたいのかを、教師が意図をもって行うようにします。

この演習は、カードに書いてある情報を伝え合うだけですが、日常の話し合いの場面では、セリフはありません。自分の考えをつかって、伝え合い、話し合っ、問題解決をしていきます。そのためのトレーニングという位置付けをすることもできます。

何はともあれ、教師が体験してみることが、一番実感できます。

校内研修等で、ぜひ、試してみてください。

## 今回のキーワード

基礎的・汎用的能力

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題解決能力
- ・キャリアプランニング能力

自ら学ぶ意欲

- ・好奇心
- ・成長欲求，優越欲求
- ・自己実現

## 学習会に参加された先生方の感想 (参加人数 26名)

- ・キャリア教育に対しては，自分自身が構えていて何をすべきなのか整理・理解できていませんでした。今回のお話の中で，毎日の授業が基本であり，授業の中で普段からキャリア教育を行っているということや，生徒指導をしながらキャリア教育を充実させていくとよいとわかり，腑に落ちました。これから，意識的に将来を考えた指導をしていきたいと思います。
  - ・キャリア教育 = 特別活動と思い込んでいたので，先生のお話を聞いて心が軽くなりました。キャリア教育が提唱された背景などを教師が理解したうえで，意図的に授業を行っていくことが必要だと感じました。
  - ・今日もとても楽しかったです。前半のキャリア教育についてのお話も，GWTも大変，勉強になり，1時間があっという間でした。  
「感情面の振り返りからルールをつくる」という言葉が，とても心に残りました。今，小学校6年生を担当していますが，ルールとリレーションを同時並行でつくっていくことを心がけています・・・が，なかなか難しいです。今日，学んだことを早速，月曜日からのクラス，学年づくりに生かしていこうと思います。
  - ・体験活動を行うことで，実感をもつことができわかりやすかった。キャリア教育は，実は，日常の教育活動であると理解して明日からの教育活動を行っていこうと思った。活動，経験したことを日々の生活や授業で活かす，そして，ルールをつくっていくという点は，単に教師が示すルールとは違い，生徒達にとってすごく説得力のあるものなので，非常によいと思い，実際にやってみたいと思った。リレーションとルールを同時につくるという点は，今後，考えなければいけないことだと思う。
  - ・「キャリア教育」については，学力向上につながる，生徒指導につながると聞いて，勇気もらいました。あまり深く考えないで，今，実践していることをきちんと続けていこうと思いました。「まちがい探し」「先生ばかりが住んでいるマンション」やってみます！
  - ・GWTの実践からルールをつくる，感情から行動ルールにつなげる集団づくりをぜひ，実践したいと思いました。生徒にルールを意識させ，必要性を実感させ，行動にうつすことが難しいと思っていましたので，今日，勉強したことは私にとって有意義なものでした。
  - ・「先生ばかりが住んでいるマンション」を行う過程で，みんな(集団)でひとつのものを完成させていく気持ちよさ，与えられた情報なのに，タイミングよく発言すると歓声があがる気持ちよさ。もし，普段，目立たない生徒でもほめられたりして，自信がつくのではと感じました。心を育てることに大いに役立つ演習だと思います。
  - ・「先生ばかりが住んでいるマンション」は実際にクラスでしたいと思いました。教師がルールをつくるのではなく，感情や必要性からルールがつけられると，生徒は自然に学んでいくのだろうなと思いました。
- (先生方が「実際にしてみたい」と思った気持ちを大切に，ぜひ，自分らしさを加味して実践してください。そして，子ども達がどんな反応をしたのか教えてください。そこに，新たな学びがあるはずです。子ども達から教えてもらうことって多いですから)